



平直人



令和元～3年度 表彰受賞歴

- 致芳コミュニティセンター：  
令和元年度文部科学大臣表彰
- 致芳小学校地域学校協働本部：  
令和2年度文部科学大臣表彰
- 致芳小学校父母と教師の会：  
令和3年度日本PTA全国協議会会長表彰

(平(直)) 改めて振り返ってみると、色々なドラマがあった。特にコアメンバーでは、定期的に集まり、アイディア出しを行った。地域の方々、保護者、先生方など周りの方々の協力で形になった。私の子どもは、全校集会で「致芳」に対する熱い思いを語る父親の姿を見て、気恥ずかしさもあつたようだが、反面、嬉しさもあつたようだ。子ども達に、致芳について語るとなつた時、改めて致芳の歴史を学んだ。それも自分の財産となつた。今回のプロジェクトは、

新しい取り組みではあつたが、先輩方もその時代に合った取り組みを全力でやってきているのが「致芳愛」であると思うし、変わらない精神だと思つ。

広く呼び掛けたこともあり、例年以上の方々から協力いただいた。また、学習発表会のライブ配信は、他校に先駆けた取り組みであつた。小学校とコミュニティの関係は切っても切れない関係であると改めて感じた。

(平(み)) 「コミュニティ・スクール(※)」は、「地域とともにある学校」がキーワードでもある。学校の中だけではできることが限られている。逆に、地域の方は、応援してあげたいという気持ちがあつても、具体的に何ができるのかと手を挙げにくい人もいると思う。今回のように、広報によって呼び掛けたことは地域の人にとつてもわかりやすかつたと思う。

— 思いを形にするには簡単なことではなかつたはず —

(平(み)) 私もPTA会長を3年間務めたが、伝え方の難しさを痛感した経験がある。時には批判もあつた。今回もそう言つた苦労もあつたのでは？

(平(直)) まずは、プロジェクトの立ち上げが大変だった。我々の思いや構想をどのように伝えるか。文字だけでの説明では駄目だろうということ、旗印となるロゴマークなども考えた。

(牛澤) ロゴマークのデザインは私が手掛けた。目標などが明確にあつたから連想できた。やっぱり致芳の象徴は「平和の鐘」であり、このプ

(鈴木(亮)) この取り組みは、学校としては、コロナ禍の真っ只中の取り組みということもあり、大変ありがたかつたということが率直な感想。特に、小学校の様々なことに協力していただける「学校支援ボランティア」では、地域に

致芳一円に「平和の鐘」が鳴り響く願いを込めたロゴマーク達を地域住民が温かい目で見守る意味合いも込めた。



コミュニティ・スクール

文部科学省が定めるコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)は、学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」への転換を図るための有効な仕組み。コミュニティ・スクールでは、学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていくことができる。

プロジェクトによって致芳一円に「平和の鐘」が鳴り響くようにという願いを込めた。

(鈴木(義)) 確か、牛澤会長は、前の晩寝ないでPRグッズを作つて持つて来てくれたこともあつたよね(笑)

(鈴木(亮)) このロゴマークのぼり旗は、オリンピックのような華やかさを連想させて、目をひいた。

(牛澤) 各種広報物を発行したが、その中に掲載した画像等は亮先生が撮影したもの。画像のクオリティーが高い。子ども達の表情を見ても凄くイキキしている。

(平(み)) 広報物や掲載する画像は、情報伝達において重要なツール。みんなのイメージと力を結集して良いものが仕上がつたのではないかな。

(牛澤) アイディア出しをしている際は、コアメンバーで大分盛り上がった。中には、校長先生に怒られるのでは？という内容もあつた(笑) その中でも、やれること、やれないことを見極めてバランスを見ながら実践した。